

阿波地域3施設の運営に関するサウンディング型市場調査結果の公表

1. 実施期間

実施要項の公表 令和2年6月11日（木）
対話によるサウンディングの実施 令和2年6月15日（月）～令和2年7月22日（水）

2. 意見聴取者数

3者

3. 対話式調査の概要・結果

（1）阿波地域での施設運営について

- ・今回の対象3施設（あば交流館、あば温泉、阿波森林公園）以外にも地域の施設全体をとらえて進めたほうが良い。
- ・交流館、温泉、森林公園は阿波での集客施設であり、情報発信などをうまく行えば、集客は見込める。
- ・温泉等（デイサービス含む）の公共事業と交流館等の収益施設とは、事業の内容が違うので、それぞれに応じた対応を行政も行ってほしい。
- ・地域を一体にまとめられる組織（受け皿）があれば、上手くまとまる。
- ・まとめ役（リーダー的存在）が必要であり、素人では経営のノウハウが無く商売に上手く結びつかない。
- ・組織を若くしていくこと（世代交代）が必要である。世代交代することで新しい発想が生まれる。
- ・阿波地域は移住者（希望者を含む）が年々増加している。農業などは新たな担い手が見込めるが、施設運営となると、行政と地元がワンチームとなって密に連携する必要がある。

（2）現在の課題や問題点について

- ・今後、施設をどのようにしていきたいか、市側がどう考えるか、ビジョンを明確にしてほしい。
- ・各施設それが別々の動きをしているため、地元の中でも連携が取れていない。
- ・阿波の事を真剣に考えているからこそ、地元の施設のためと思い、各個人がかなり奉仕的な動きをしている。
- ・指定管理のあり方として、使用料や開館時間など細かく設置条例で決まっており、自由裁量部分が少ない。条例等の見直しが必要である。

4. 今後の対応

今回の阿波3施設のリニューアルに向けた取り組みは、単に施設を残すためではなく、より効果が上がることを目的としており、ビジネスモデルとして成り立つ仕組み作りが必要となります。このことから、公民連携による施設運営に向けて具体的に検討を進めてまいります。